

「孤独・孤立対策の重点計画」に基づく孤独・孤立対策の施策の実施状況の評価・検証について（議論のたたき台）

1. 孤独・孤立対策の各種施策の評価・検証の在り方について

- 孤独・孤立対策の重点計画に記載される施策の多くは、各種制度の趣旨やその目的を達成するために実行されているものであるが、結果として「孤独・孤立に悩む人を誰ひとり取り残さない社会」「相互に支え合い、人と人との「つながり」が生まれる社会」といった孤独・孤立対策が目指す社会像の実現にも寄与しているという面があると考えられる。
- このため、孤独・孤立対策の各種施策の評価・検証に当たっては、
  - ・各種施策が孤独・孤立対策の基本方針のいずれかに分類されるか整理し、
  - ・各種施策について、分類された基本方針の観点から工夫している点や留意している点を重点計画に明記し、
  - ・その工夫している点や留意している点の進捗状況や、効果を検証できる指標があれば当該指標を重点計画に記載する方針とすることとしてはどうか。その際、評価・検証の実施可能性をどのように考えるか。

2. 孤独・孤立対策全体の評価・検証の在り方について

- 参考指標として、実態調査結果における孤独感や社会的孤立に係る指標の変化をフォローアップすることとしてはどうか。
- 上記のほか、他の政府統計等で参考になる指標も含め、関連するデータを見える化することについてどのように考えるか。その際、どのような政府統計等が参考になると整理するべきか。

3. その他

- 今後、地域の官・民・NPO等の連携の中で進む個別の取組の評価・検証が各実施主体により実施されることが想定される。これらが円滑に行われるよう、個別の取組の評価にあたっての指標や考え方についても検討していくべきではないか。その際、「孤独・孤立対策では継続性が大事であり、評価という手法がなじむのか」といった御意見や、「取組のプロセスを見ていくことが重要ではないか」等の御意見があったことを踏まえて、その指標の設定に当たっては、有識者等の意見も聞きながら慎重に検討すべきではないか。

(参考) 孤独・孤立対策の重点計画における孤独・孤立対策の基本方針

(1) 孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする	①孤独・孤立の実態把握
	②支援情報が網羅されたポータルサイトの構築、タイムリーな情報発信
	③声を上げやすい・声をかけやすい環境整備
(2) 状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる	①相談支援体制の整備（電話・SNS相談の24時間対応の推進等）
	②人材育成等の支援
(3) 見守り・交流の場や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う	①居場所の確保
	②アウトリーチ型支援体制の構築
	③保険者とかかりつけ医等の協働による加入者の予防健康づくりの推進等
	④地域における包括的支援体制の推進
(4) 孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する	①孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動へのきめ細かな支援
	②NPO等との対話の推進
	③連携の基盤となるプラットフォームの形成
	④行政における孤独・孤立対策の推進体制の整備